

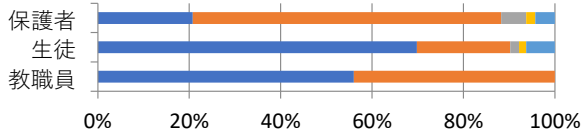
令和5年度 学校評価

そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない ■

①いのちを大切にす心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

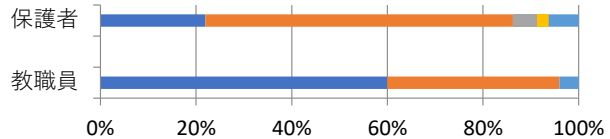
1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にす指導や対応ができていますか。



2 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）

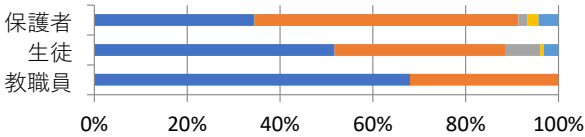


【考察】どちらの項目も保護者の肯定的評価は、昨年度より数ポイント上がり、どちらも87%を超え、高い評価をいただいている。また、教職員の評価は、1「一人一人の児童の尊重」の項目では4評価が4ポイントアップし、同項目の児童の4評価も昨年度に比べ9ポイントアップし7割を超えた。学校では、まず、担任が学級の児童一人一人にしっかりと寄り添い、話や悩みをじっくりと聴いて対応するとともに、児童理解夕会で気になる児童の情報を共有し、全職員で見守り・声かけ等の支援を行うよう努めている。また、人権月間や人権集会を通して、人権意識の向上にも力を入れている。このような学校全体としての取組や、教職員一人一人の取組が、子どもたちへも伝わり、保護者へも伝わっていると考えられる。一方では両項目とも、児童及び保護者から数%の否定的な評価を受けているという事実を真摯に受け止め、一人一人を大切にす指導の充実に努めていく必要がある。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

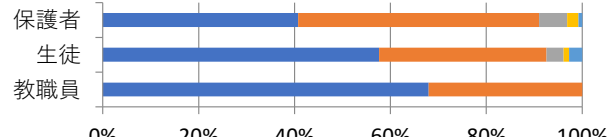
3 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



4 タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。

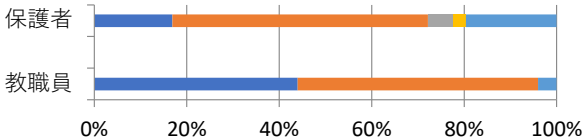


【考察】3の「授業力向上」で、保護者・児童・教職員のほぼ9割が肯定的評価となっている。今年度の校内研修の研究主題を「子どもがわかる、つながる、やる気が出る授業の創造」とし、タブレットの効果的な活用をはじめ、児童の意欲を引き出すような教材や課題提示の工夫、めあての明確化やみんなが分かる授業展開の工夫等について研修を深めており、本校教職員が目指す全員参加の授業づくりの工夫が保護者や児童に伝わっているものとする。一方、両項目で、保護者や児童から4～10%の否定的な評価があることを受け止め、今後もさらに授業改善に取り組んでいきたい。

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

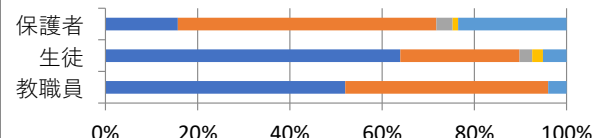
5 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。



6 共生社会を担う人材の育成

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



【考察】両項目の肯定的評価を昨年度と比較してみると、児童は84%でほぼ変わらない。保護者は、5「支援体制」と、6「共生社会」で共に72%と、昨年度とほぼ変わっていない。また、教職員でも、肯定的評価は共に9割以上となっており、特別な支援を必要とする児童について、個別の指導計画のもと、本人や保護者ともに対応を考え、実践している効果が表れてきている。6「共生社会を担う人材の育成」に関しては、実際に学校で体験している児童の4評価は昨年度の50%から64%と14ポイントアップしており、学校での交流学習や共同学習についての実践の効果が表れていると思われる。今後も、交流や共同学習等の実践を積み重ねていきたい。

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

| 7 安全と事故防止 | 8 家庭や地域との連携協力 |
|------------------------------------|--------------------------------------|
| 学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。 | 学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。 |
| | |

【考察】「安全と事故防止」では、昨年同様教職員の100%が肯定的評価をしており、安全教育に対する意識が高い。また、児童は「あなたは、事故にあわないようにするなど、安全に気をつけて生活していますか」という問いに対して、4評価が昨年の50%から67%と17%も上がっており、日々の安全指導の効果ができていると考えられる。保護者の評価でも、肯定的評価が昨年度よりも5ポイント上がり85%となり、学校の安全教育に対してご理解いただいている。ただ、否定的評価も数%であるが児童・保護者からいただいていることを受け止め、引き続き、様々な機会や場を通して安全教育に努めていきたい。

8「家庭や地域との連携協力」では、教職員が、昨年度より4評価を6ポイント伸ばし肯定的評価が88%となったものの、昨年度より、否定的な評価が8%増えている。保護者では、肯定的評価及び否定的評価は昨年度とほぼ変わらない。地域との連携については、クラブ活動や授業で地域の方に外部講師として来校いただいたり、毎年恒例の門松づくりなど、多くのご協力をいただいている。職員は、電話や通信での連絡に加え、ホームページ、安心メール、タブレットを活用してのオンライン等、工夫しながら連携・協力を努めているが、さらに情報発信に努めていく必要がある。

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

| 9 気持ちのよい挨拶と返事 | 10 考えや思いを相手に伝えようとする態度 |
|---------------------------------|---------------------------------------|
| 子どもたちは、気持ちのよい挨拶と返事ができていると思いますか。 | 子どもたちは、自分の考えや思いを相手に伝えるように話していると思いますか。 |
| | |

【考察】両項目とも、保護者や児童の肯定的な評価は、どちらも約8割で傾向としては昨年度と大きく変わってはいない。一方、教職員は大きな変化が見られ、9「挨拶と返事」では、4評価「できている」が0%から8%となり、3評価も48%から72%となり、肯定的評価が48%から80%へと大幅に上がった。保護者や教職員が期待する望ましい姿(挨拶・返事・考えや思いの伝え方)を具体的に子どもたちへ伝えたことや、委員会活動などで、児童が主体的に取組・実践・行動へと活動が進んできたことが効果を上げていると思われる。10「考えや思いを相手に伝えようとする態度」では、保護者と児童の肯定的評価は昨年とほぼ変わらない。教職員では、昨年4評価が0%であったが、今年度は16%となり、大きくポイントが上がっている。今年度の校内研修で、「つながる」授業を意識した取組を行っており、様々な場面で少しずつ効果が出てきているのではないかとと思われる。

来年度の具体的な取組について

- 職員研修や放課後のミニ自主研修により、ICTの効果的な活用法について研修を深めるとともに、授業力向上と授業改善につながる実践的な研修となるよう、内容を工夫改善していく。
- これまで同様、丁寧な学習指導・生徒指導に努め、日常の行動観察・会話や「心のアンケート」「きずなアンケート」等の活用により、児童一人一人の思いを受け止め、問題の早期発見・迅速な対応に努める。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーをはじめ、関係諸機関の協力を得ながら、全ての子どもが安心して楽しく過ごせる学校づくりを継続していく。
- 様々な場に応じた挨拶ができるように、あらゆる場面で指導を継続しているが、今後も時と場所に応じた適切な言葉を使った挨拶ができるように取組を進めていく。また、何事にも感謝の気持ちを伝えられるように、「ありがとう」が飛び交う学校づくりに努めていく。
- グリーンタイムやボランティア活動などの多様な活動を充実させることで、一人一人の活躍の場をつくり、自己肯定感を高め、互いに認め合い助け合う集団づくりを進める。
- 家庭や地域と連携しながら、安心安全な学校づくりと、早寝早起き朝ごはんなどの基本的な生活習慣の確立、及び、これからの情報化社会に必要な情報モラル・情報セキュリティの意識を高めるための取組を進めていく。

学校関係者評価

- ここ数年は、コロナ禍によって、地域との希薄化が進んできていたが、今年度は、学校行事や伝承遊び体験、低学年児童との昔遊び体験、門松づくりなどの活動を通して、子どもたちと地域とのつながりが深まった。今後も続けていきたいと思う。
- 挨拶に関しても、学校行事やいろいろな活動を通して、子どもたちと会話する機会が多くなり、気軽に挨拶を交わすことができた。子どもたちから、元気をもらっている。ただ、1割程度の児童は、まだ挨拶が返ってこない児童もいる。
- 交通ルールをしっかり守る児童が増えている。信号待ちもよくできており、信号が点滅し始めると止まって待つことができている、感心している。大人のほうが交通ルールを守らないことが多い。
- 先生方が、授業研究や授業改善に熱心に取り組まれている。生徒指導も丁寧なされていて、忙しい日々が続いていると思われる。先生方自身の働き方改革も進んでいるということであるが、先生方も時間や気持ちに余裕がないとよい教育はできないと思うので、先生方の負担が大きくなるようにしてほしくないと思う。